快護通信

A good care makes a good smile. A good smile induces happiness.

2024年
4月発行
発行人光洋

65号

KOYO　株式会社光洋　オンリーワンケア事業部

株式会社光洋●〒236-0004 横浜市金沢区福浦 1-5-1●TEL045-701-2210

紙おむつのあて方ムービー

「排泄ケアお役立ち情報をご案内中」

光洋　検索

http://www.koyo.jp

おむつのあて方は「十人十色」

皆さんはおむつ交換を行う際は、個別性を把握して対応していますか？排泄ケアを行う上で一番大切なことは、一人ひとりに合ったケアの対応です。例えば、下肢が屈曲していたり左右の足の太さが違うなど身体的特徴や皮膚状態が違うように、排泄状況も水様便が続いたり尿圧が高い、血尿（経血）が出るなど様々です。排泄ケアも事前にしっかりとアセスメントをしておくことが大切になります。

様々な状況に対応するためには、まずは基本のあて方を身に付けて応用できるようにします。そのためには、その方がどの様にすれば快適に過ごして頂けるのかを常に考えます。今回は、おむつ交換を行う際の状況別の対応方法をいくつか紹介いたします。

①身体的特徴

【円背】

側臥位の状態ではおむつがあてづらい場合は、背部にクッションなどを使用することで仰臥位を取ることができます。

円背で体が丸まっている

背部に支えが無いと体が傾く

クッションなどで安定させる

【下肢屈曲】

閉じている膝を無理に手で開くのではなくおむつと尿取りパッドを半分に折り下肢のすき間から通すことでご本人に負担をかけることなくおむつをあてることができます。

尿取りパッドを半分に折る

足のすき間から通す

②排泄物の状況別対応

【水様便】

尿取りパッドは使用せずにテープおむつを単体使用することで、便をキャッチする空間ができ、便を溜めることができます。

内腿のお肉は外側の方向から避けて、立体ギャザーを鼠経部に沿わせる

こぶし1個分の空間を作ってからテープを止める

ひろびろ安心パッド

スキンクリーンコットン

必要に応じて便専用商品を選択する

【陰嚢がただれる方】

水様便が陰嚢に付着してスキントラブルが起こりやすい場合は、尿取りパッドを陰嚢ごと巻いて対応します。

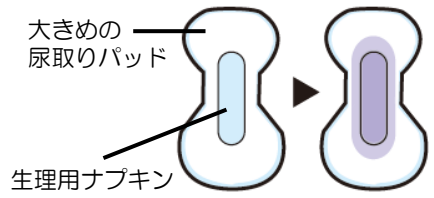
陰嚢ごとパッドで巻く

広い面側から折り畳む

反対側も折り畳む

【血尿（経血）が出ている】

尿取りパッドは血液を吸収しづらいので、大きめのパッドの上に小さめの生理用ナプキンを置き、適宜交換します。



③安全・安楽な対応

【側臥位が不安定であてづらい】

ご本人が自然と側臥位になりやすい側にケアする人が立ちます。対面側臥位を取ることでお互いの体が近づき、側臥位が安定しておむつがあてやすくなります。状況に応じてベッドの配置や頭側になる向きを変えます。

中途半端な側臥位はお互いに負担があるので行わない

完全側臥位になるようにする

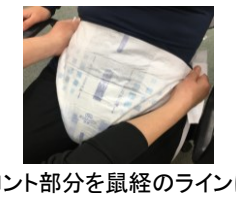
体が安定しておむつがあてやすくなる

【立位でおむつがあてづらい】

テープおむつをあてるときは、座って頂いてからテープを止めます。

上のテープは腰骨より上に配置して、足の間からフロント部分を前方に送り込み座ってもらう

尿取りパッド、テープおむつの立体ギャザーを持ち、内腿のお肉を避けて鼠経部に沿わせる



フロント部分を鼠経のラインに合わせて折り込み、体にフロント部分を巻き付けてテープを止める

1人ひとりに合ったケアを…

その方に合ったケアを行うためには、しっかりと日頃から観察して状況を見極めた上で、支援して差し上げることが大切です。職員様の技術力で排泄で悩まない人がいなくなる未来を一緒に作っていきましょう。

基本のあて方

おむつのあて方動画です。日頃の排泄ケアに活かしてください。

フィッティングテープ

モレに強く、パンツのようなやさしい装着感！

新開発の二つのギャザーと
立体形状の吸収体でモレを防ぎ、
パンツタイプのようなやさしい装着感

S:56~90cm　M:75~106cm　L:85~131cm　XL:95~145cm

吸収目安：４回（1回150mlとして）

高齢者施設における排泄ケア取り組みレポート

特別養護老人ホーム古千谷苑様
ー夜間の尿失禁を改善できた“気付き”とはー

S様と鈴木さん

東京都にある特別養護老人ホーム古千谷苑様。光洋とはマイスター研修を通し日々の排泄ケア向上に向けた取り組みを行っています。
今回ご紹介するのは、夜間になると毎日ベッド上で尿失禁があった利用者様の事例です。職員の皆さんがどのような工夫をされて改善につながったのか、マイスターの鈴木啓司さんにお話を聞きました。

S様の課題

日中はご自分でトイレに行き、尿失禁をされることが全くないS様。
就寝介助後はご本人からトイレに行きたいとの訴えはなく、起き上がることもないため尿取りパッドを使用していましたが、毎晩のようにベッド上でパッドを外したり、尿もれによる全更衣があるため、スタッフはこまめに訪室をして、交換のタイミングを見計らうようにしていました。しかしなかなか改善がみられず、時間が経つにつれ職員は“毎晩尿失禁してしまうのは仕方ない”と、その現状に半ば諦めを感じていました。

コミュニケーションの大切さ

日中トイレでの排泄ができているのに夜間全く行かないのはなぜだろうと疑問を抱いた鈴木さんは、巡視で訪室すると目が覚めている時もあるため、常に寝入っているわけではないと気づきました。
そこである日、起きていたＳ様に「トイレに行きますか」と声をかけてみたところ、「行く」というような返答があったためお連れするとトイレでしっかり排尿したのです。
それから鈴木さんは、S様とのコミュニケーションを増やし、就寝介助の際には必ず“夜でもトイレに行きたかったら呼んで下さい”と伝え、巡視の際も、起きていたら声掛けを行う事をユニット内で共有しました。
取り組みを始めて1か月、ナースコールでの呼び出しはないものの、夜間ベッドで端座位になっていることが増えてきました。そこで希望時にはトイレへのご案内を行い、移乗動作など見守りながら、日中と同じ状況を作ることでスムーズにトイレで排泄できるようになってきました。この方法を毎日毎日繰り返すことで、夜間帯の尿失禁はついに全くなくなったのです。

結果

取り組み前までは職員の失禁に対する諦めの気持ちが自然とS様に伝わり遠慮に繋がっていたのではないかと考えられます。尿意を感じたら身体を起こし、ベッドから降りてトイレに行く…、一見当たり前のように思える行為でも、認知症の方にとっては日中と夜間の景色が変わってしまうことで排泄が難しくなる場合があります。
鈴木さんは、ベッド上での尿失禁やおむついじりは“仕方ない”と諦めてしまうと改善は絶対に見られないので、まずはやってみることが大切だと話されます。さらに、今後は施設内での事例発表会などを通じ、取り組みを近隣施設にも広めていく予定です。

最後に…

今回の事例は、今起きている現状に職員が“なぜだろう”という疑問を持つことから始まったものです。
マイスターの活動を通じ、施設全体が排泄ケアに対する課題意識が高まっています。これからも**「その人らしい排泄ケアの実現」**に向けた活動を期待しています。

氏名：S様　男性	
ADL	移動：車椅子自走　移乗：一部介助 立ち上がり：自力　座位保持：自力 寝返り：可
コミュニケーション	可。視力・聴力問題なし。

光洋マイスター　2期生認定！！
社会福祉法人滝川市社会福祉事業団
滝川市特別養護老人ホーム　緑寿園様

2020年11月に光洋マイスター第５号を取得された緑寿園さん。1期生の活躍に触発され、2021年8月に2期生の研修をスタートしました。コロナの影響などにより、度々研修が延期となりましたが、2023年11月に無事に認定となったお二人に今回お話をお伺いしました。

研修で一番大変だったことは？

河野さん：色々な業務と並行して、利用者さんの排泄ケア課題解決の取り組みを進めることが大変でした。取り組み経過中に利用者さんの体調不良などもあり対象者の方を変えて一からケアを考え直したり、試行錯誤して取り組みました。
西出さん：職員へ指導をすることが大変でした。教えることの難しさもマイスター研修を通じて感じることができて良い機会になりました。
あとは、テストも久しぶりで大変でした笑

大変だったことをどの様に乗り越えましたか？

河野さん：現場の職員に自ら取り組み内容などを説明して理解して頂き、みんなで利用者さんに携わることで乗り越えられました。
西出さん：職員へ指導する時以外にも自らコミュニケーションを取ることを意識したことで、利用者さんのケアなどについての会話が増え、指導しやすい雰囲気になりました。

1期のメンバーと今後どのように活動していきたいですか？

お二方：200床という大規模施設で職員数が多く、おむつのあて方を含めて指導する必要があるところも多いので、私たちマイスターが各ユニットに出向いて現状の困っていることを聞き取り職員指導を行ったり、利用者さんの「思い」を大切にして心地よく生活できるように、日々、頑張っていきたいと思います！

写真上段左から：藤本さん、新林さん（マイスターのサポーター）
写真下段左から：西出さん、河野さん（マイスター2期生）